

シンクヘルスアプリを用いた臨床研究にて「インスリン投与中糖尿病患者の血糖管理に及ぼすPersonal Health Recordの影響について」論文にて公開されました。

シンクヘルス株式会社(本社:台湾、日本法人:東京都千代田区、CEO:エド・デン)の開発・運営する糖尿病の管理アプリ「シンクヘルスアプリ」を用いたともながクリニックの臨床研究において、PHRの有効性を示す結果が示唆され、論文に掲載されたことをお知らせいたします。

※:PHRとはPersonal Health Recordの略で個人の医療・介護・健康データのこと

目的

近年、Personal Health Record (以下PHR) の導入による生活習慣病への治療効果が注目されています。弊社の糖尿病管理アプリ「シンクヘルス」を用いて自己血糖測定(以下SMBG)結果の管理すると、種々の解析が可能になります。また、シンクヘルスプラットフォームを使用するクリニックとつながることで、患者さんが来院していなくても測定結果を医療機関側で閲覧、共有することができます。今回、インスリン投与中の1型糖尿病(以下T1DM)、2型糖尿病(以下T2DM)の治療にてPHRアプリ「シンクヘルス」利用患者のHbA1c低下効果を後方視的に検討することを目的としています。

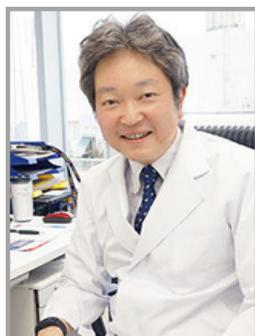
対象

シンクヘルスアプリを利用した患者さん49名を対象としました(49名のうちT1DMは35名、T2DMは14名)。対象者の利用開始後、4カ月間HbA1c・体重・Body Mass Index(以下BMI)・インスリン投与量の変化を評価しました。また、シンクヘルスアプリの利用頻度別(15回/月以上:高頻度利用群、15回/月未満:低頻度利用群)に分けて評価をしました。

結果

全体では、HbA1cは開始時 7.65 ± 0.83 %から4カ月後 7.50 ± 0.87 %へ有意な低下がみられました。高頻度利用群では最大0.28%有意に低下し、利用開始後4カ月間を通して有意な低下を維持しましたが、インスリン投与量・体重・BMIなどに変化を認められませんでした。よって、糖尿病の病型に関わらず、インスリン投与中の患者さんにおいて、PHRの利用によりHbA1cが改善することが示唆される結果となりました。

■論文はこちら：https://www.jstage.jst.go.jp/article/tonyobyoy/66/7/66_513/_article/-char/ja



ともながクリニック 院長 朝長 修先生

インスリン使用中の患者さんにおいてシンクヘルスの有用性が証明されました。1型糖尿病が39名参加されていることの意義が大きいと思います。シンクヘルスは多機能、高機能でインスリン注射、自己血糖測定を行われている患者さんには最適のアプリと思います。

今後の展望

今後もより効率的にPHRを管理し、活用できるようなアプリケーションとプラットフォームの開発・運営に努めてまいります。また、引き続き、医療機関などによる臨床研究も進めていく予定です。

シンクヘルス株式会社概要

会社名	シンクヘルス株式会社
創業年	2013年6月 日本法人は2018年2月
代表者	CEO：エド・デン 日本取締役代表：野本祐司
所在地	〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2丁目3-1 NBF神田須田町ビル7F
事業内容	シンクヘルスアプリ・プラットフォームの開発・運営
株主	SOMPOホールディングス株式会社
主要取引先	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社、サノフィ株式会社、アボットジャパン株式会社、明治安田生命保険会社、その他医療機器メーカー、製薬会社など
情報管理	プライバシーマーク、ISO27017、ISO27001を取得
ホームページ/SNS	HP： https://health2sync.com/ja/ Blog： https://www.health2sync.com/ja/blog Instagram： https://www.instagram.com/health2sync_official/ Twitter： https://twitter.com/health2sync_jp

ともながクリニック概要

医院名	医療法人社団ライフスタイル ともながクリニック 糖尿病・生活習慣病センター
院長	糖尿病学会研修指導医、糖尿病学会評議員、日本内科学会認定医、日本内科学会専門医 朝長 修
診療科目	内科・眼科・循環器内科
所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿4-2-23 新四curumuビル9階